

## 一般社団法人 日本地震工学会 第16回理事会議事録

- A. 日 時 : 2012年7月24日(火) 17:00~21:00
- B. 場 所 : 専売会館8階会議室
- C. 出席者 :
- (会長) 川島一彦
- (副会長) 若松加寿江、芳村学、当麻純一
- (担当理事) 矢部正明、福喜多輝、矢代晴実、渡壁守正、加藤研一、高橋徹、  
富田孝史、斉藤大樹、松田隆、五十田博、清野純史、田村敬一
- (欠席) 大谷章仁、中埜良昭、永野正行
- オブザーバー出席: 嶋原毅事務局長

### D. 提出資料

- 資料 16-00 一般社団法人 日本地震工学会 第16回(平成24年度第2回)理事会 議事  
次第(案)(矢部理事)
- 資料 16-01 第15回理事会議事録(福喜多理事)
- 資料 16-02 会務報告(矢部理事)
- 資料 16-03-01 会計報告(大谷理事(代・矢代理事))
- 資料 16-03-02 予算管理月報(大谷理事(代・矢代理事))
- 資料 16-03-03 収支予算管理月報(大谷理事(代・矢代理事))
- 資料 16-04 入退会者(渡壁理事)
- 資料 16-05 共催・後援・協賛等について(福喜多理事)
- 資料 16-06 平成24年度日本地震工学会委員会委員名簿(修正分、未決分)(福喜多理事)
- 資料 16-07 日本地震学会・日本地震工学会 会長懇談会 議事録(案)(福喜多理事)
- 資料 16-08-01 15WCEE SPONSORSHIP Exhibition 支払い・寄付報告(矢代理事)
- 資料 16-08-02 15WCEE 対応に関する進捗状況報告メモ(中埜理事(代・福喜多理事))
- 資料 16-09-01 2012年度 日本地震工学会大会(東京)開催会場、日程(五十田理事)
- 資料 16-09-02 2012年度 日本地震工学会大会準備状況(五十田理事)
- 資料 16-10-01 JAEE International Symposium on Earthquake Engineering(清野理事)
- 資料 16-10-02 日本地震工学会国際シンポジウム(清野理事)
- 資料 16-11-01 平成24年度第2回電子広報委員会議事録(案)(富田理事)
- 資料 16-11-02 日本地震工学会 Web ページの情報管理案(富田理事)
- 資料 16-12-01 役員選挙に伴う日本地震工学会 HP の更新(渡壁理事)
- 資料 16-12-02 一般社団法人 日本地震工学会 選挙規程(渡壁理事)
- 資料 16-12-03 選挙管理委員会内規(案)(渡壁理事)
- 資料 16-12-04 一般社団法人 日本地震工学会役員選挙の公示案内(2012)(渡壁理事)
- 資料 16-12-05 届出書(会長)(渡壁理事)
- 資料 16-12-06 届出書(監事)(渡壁理事)

- 資料 16-12-07 略歴書の記載事項（会長・監事共通）（渡壁理事）
- 資料 16-13-01 役員候補推薦委員会内規（案）（矢部理事）
- 資料 16-13-02 日本地震工学会 組織図（矢部理事）
- 資料 16-14 16WCEE 誘致委員会 WG 議事録（案）（川島会長）
- 資料 16-15 第 1 回 将来構想委員会 議事録（案）（当麻副会長）
- 資料 16-15 附属資料 日本地震工学会 会員入会年度 年代別一覧（当麻副会長）
- 資料 16-16 日本地震工学会事業企画委員会 平成 24 年度 第 1 回議事録（案）（松田理事）
- 資料 16-17 オンラインによる会員情報の初期設定と会員登録情報更新のお願い（渡壁理事）
- 資料 16-18 平成 24 年度関係学会地震被害調査連絡会 緊急時の連絡先（田村理事）
- 資料 16-19 次号会誌（平成 25 年 1 月号）の企画素案（斉藤理事）

## E. 議事

### E 1. 報告事項

#### 1) 第 15 回理事会議事録の確認（福喜多理事、資料 16-01）

福喜多理事より、第 15 回理事会議事録について説明があり、承認された。

#### 2) 会務報告（矢部理事、資料 16-02）

矢部理事より、2012 年 6 月 26 日～2012 年 7 月 24 日までの会務報告が行われ、承認された。

#### 3) 会計報告（大谷理事（代・矢代理事）、資料 16-03-01～資料 16-03-03）

矢代理事より、2012 年 4 月 1 日～2012 年 6 月 30 日の会計報告が行われ、承認された。

### E 2. 議案

#### 1) 入退会者について（渡壁理事、資料 16-04）

渡壁理事より、2012 年 7 月 24 日現在、正会員 8 名の入会があり、退会者は無しと報告され、承認された。また、鳴原事務局長より、会費未納者による資格停止者が正会員 16 名、学生会員 29 名であることが報告された。

以上の結果、会員数は、名誉会員 21 名、正会員 1,112 名、学生会員 84 名で、現在総数は 1,217 名、法人会員 87 社となることが確認された。

#### 2) 共催・後援・協賛等について（福喜多理事、資料 16-05）

福喜多理事より、以下に示す協賛（1 件）の報告があり、承認された。

協賛依頼：中部ライフガード TEC2013～防災・減災・危機管理展  
（主催：名古屋国際見本市委員会）

#### 3) 委員会委員の委嘱について（福喜多理事、資料 16-06）

福喜多理事より、前回の第 15 回理事会で承認された委員会委員の更新と追加が紹介され、承認された。

### E 3. 懇談事項

#### 1) 日本地震学会・日本地震工学会 会長懇談会について（福喜多理事、資料 16-07）

福喜多理事より、日本地震学会と日本地震工学会の会長懇談会について紹介が行われた。これに関連して、川島会長より以下の指摘があった。

- ・ ミルン没後 100 周年に関連して、ミルンの功績を両学会の会員に紹介する記事を日本地震学会、日本地震工学会で各 1 編作成し、これらを両学会の学会誌に掲載する件については、斉藤理事が準備を進める。
- ・ 四半期に 1 回発行予定のニューズレターの相互掲載、一方の会員であれば他方の学会での発表ができないか、2012 年 11 月開催の日本地震工学会国際シンポジウムにおいて日本地震学会会員であれば無料で発表させられないかなど、2 学会の連携について、日本地震工学会の担当窓口は福喜多理事が行う。

#### 2) 15WCEE の寄付、準備状況について

（矢代理事、資料 16-08-01、中埜理事（代・福喜多理事）、資料 16-08-02）

矢代理事より、資料 16-08-01 を用いて、15WCEE の Sponsorship, Exhibition への支払いが、送金手数料を含めて 12,300 ユーロ (1,218,871 円) であったことが報告された。内訳は、個人および法人の寄付金が 705,000 円、日本地震工学会の寄付支出が 527,871 円 (送金手数料含む) であった。寄付金は目標の 80 万円にはやや届かなかったが、多数の会員からの貢献があった。寄付者の氏名は学会誌 7 月号に掲載予定である。

福喜多理事より、資料 16-08-02 を用いて、15WCEE の準備状況が報告された。ブース内に展示、準備するものは、(1)東日本大震災を中心とした被害写真と地震の基本情報に関するポスター、(2)PC による映像コンテンツ/マテリアル、(3)購入/ダウンロード可能なアイテムの紹介 flyer、(4)日本地震工学会の紹介パネルである。準備に必要な経費 (ポスター掲示用パネル、ポスター印刷、PC 購入費など) は学会が負担する。学会期間中のブースの人員配置について、協力していただける会員に依頼する。

#### 3) 2012 年日本地震工学会年次大会について（五十田理事、資料 16-09-01、資料 16-09-02）

#### 4) 第 1 回国際シンポジウムについて（清野理事、資料 16-10-01、資料 16-10-02）

五十田理事より、資料 16-09-01、資料 16-09-02 を用いて、2012 年日本地震工学会年次大会について説明があり、会場割り当てのめどが立っていること、オーガナイズドセッション (1 件) の担当者を募集していること、大会にかかる経費を削減する方策を実施していることが報告された。

続いて、清野理事より、資料 16-10-01、資料 16-10-02 を用いて、第 1 回日本地震工学会国際シンポジウムの準備状況について説明があり、年次大会と同時開催として準備を進めていること、ホームページにはすでにシンポジウムの案内を出していることが報告された。

これらの報告に対して、以下の議論があった。

- ・ 川島会長より、国際シンポジウム用の会場は確保可能かとの質問があり、五十田理事より、

80人室を割り当てる予定との説明があった。

- ・ 若松副会長より、各研究委員会に対してオーガナイズドセッションへの申込をするように依頼済みであるとの報告があった。
- ・ 年次大会と国際シンポジウムの参加費の扱いについて議論があった。年次大会または国際シンポジウムのいずれかに参加費を支払えば、両方に参加できるようにすることとした。ただし、DVDや論文梗概集を両方から受け取ることは、経費面から厳しいため、適当な方策を考えることとする。
- ・ 川島会長より、国際シンポジウムのアブストラクト審査委員についての質問があり、応募分野別の査読者を決定した。また、清野理事より、アブストラクトの査読規程(案)が示され、了承された。

#### 5) 電子広報委員会からの報告（富田理事、資料 16-11-01、資料 16-11-02）

富田理事より、平成24年度第2回電子広報委員会における議論の内容の説明がなされた。これについて、以下の指摘があった。

- ・ 川島会長より、四半期に1回のニュースレターには編集責任者名、電子広報委員会委員の全員の氏名を示すようにして欲しいとの提案があり、了承された。これは、ニュースレター担当者の顔が会員から見えるようにすることにより、会員と担当者間の情報連絡が密になり、結果として、会員にとって有効な情報提供が可能となると同時に、編集担当者にも会員の声が届くことを期待するものである。
- ・ 若松副会長より、学会ホームページに行事報告のリンクがなかったり、階層が深く探せないため、改善して欲しいとの指摘があり、委員会で改良することになった。
- ・ 川島会長より、「電子広報委員会」という「ウェブのお世話係」と「他の委員会で決まった事項を単に広報するだけ」という消極的なイメージではなく、本会にとって重要なニュースを自ら探しだし、関連委員会に記事を依頼し、これらをまとめて発信するという意識を持った、いわば、情報クリエイターとしての役割であることがわかる適切な委員会名称に変更するように依頼があった。

#### 6) 選挙管理委員会からの報告（渡壁理事、資料 16-12-01～資料 16-12-07）

#### 7) 役員候補推薦委員会からの報告（矢部理事、資料 16-13-01～資料 16-13-03）

渡壁理事より、資料 16-12-01～資料 16-12-07 を用いて、2012年役員選挙の準備状況について説明が行われた。

2012年役員選挙に伴うホームページの更新内容（資料 16-12-01）、選挙規程（資料 16-12-02）、2012年役員選挙の公示案内の文案（資料 16-12-04）、会長、監事の立候補届出書、略歴書の記載事項（資料 16-12-05～資料 16-12-07）は、何れも了承された。

資料 16-12-03「選挙管理委員会内規（案）」の第1条の選挙管理委員会構成員の資格について、「委員会委員長」には理事が担当している各委員会の委員長だけでなく、研究統括委員会の下で活動している研究委員会の委員長も含まれることが確認された。

矢部理事より、資料 16-13-01 を用いて、役員候補推薦委員会内規（案）が説明された。現在の

選挙規程では、「第 2 条 最終候補者の選定」の「1. 会長及び監事候補者については、公募によるほか役員候補推薦委員会の委員の持ち寄りの 2 種類の方法により選ばれた会員を候補者リストに加える。」と、「3. 公募による候補者と役員候補推薦委員会の委員が持ち寄った候補者は同等に扱う。」は、役員候補推薦委員会の内規とすることはできないため、選挙管理委員会の内規とすることが説明された。これに対して、川島会長から、選挙管理委員会は決まった流れに従って選挙が公平に実施されるように管理することが目的であり、役員候補選定の基本的考え方は役員候補推薦委員会の規程とすべきであり、再検討するようにとの意見が出された。

次に、資料 16-13-02 を用いて、選挙管理委員会と役員候補推薦委員会の位置づけが説明され、これら 2 委員会は、社員総会の下に置くように変更することとした。これは、役員候補推薦委員会規程および選挙管理規程は理事会において決定するが、これに従った役員候補者の推薦および選挙管理は理事会の意見に作用されず、公平に実施すべきものであるためである。

次に、平成 24 年度第 1 回役員候補推薦委員会における議論の内容が説明され、役員候補推薦委員会が選出した候補者に、どの時点で何時打診すべきかを議論した。芳村副会長より、立候補者の有無にかかわらず、役員候補推薦委員会は 8 月中に候補者を選出し打診すること、打診された会員が候補者となることを固辞された場合には名簿の順位に従って次の候補者に打診するという流れで候補者を選出してはどうかとの意見が出された。これを踏まえて、役員候補推薦委員会は 8 月 1 日の選挙公示後の早い段階で会長候補者（2 名以上）、監事候補者（改選定員数 + 1 名以上）の選出と選出者への連絡、確認を始めることが承認された。

川島会長より、役員候補推薦委員会の役割は、学会の将来を考える人を推薦するという本会に取って最も重要な役割を担っており、この役割を果たせる人材を役員候補推薦委員会委員として選出できるようにすることが重要であることから、役員候補推薦委員会委員に求められる資質に関する内規（案）を選挙規程に盛り込むようにとの指示があった。

以上の意見を集約し、選挙規程は全面的に見直し、2012 年 11 月の臨時総会で承認を得て、2013 年以降の選挙から適用できるように準備することが確認された。

#### 8) 16WCEE 誘致委員会からの報告（川島会長、資料 16-14）

川島会長より、16WCEE 誘致のための準備状況について、正式に IAEE に 16WCEE の立候補を表明したこと、他に立候補を予定しているのは米国、チリ、インドネシア、オーストラリアの 4 カ国程度であることなどが報告された。

#### 9) 将来構想委員会からの報告（当麻副会長、資料 16-15、資料 16-15 付属資料）

当麻副会長より、第 1 回将来構想委員会における議論の内容の説明がなされた。将来構想委員会では、(1) 若手会員（特に 20 歳～30 歳代の正会員）の確保、(2) 海外会員の確保、(3) マスコミとの交流の 3 項目について検討しつつあることが報告された。これに対して、以下の指摘があった。

- ・ 川島会長より、マスコミとの交流会を実施して欲しいとの要請があった。マスコミは何に興味を持っているかを探り、それに関係する内容を題材（テーマ）として交流会を開催してはどうか、準備に手間取るよりも、まずやってみて、順次、適切な方式に改めていくこ

とが重要ではないか、交流会の案内は、部署ではなく記者個人に送るのが有効ではないかとの意見が出された。

- ・ 川島会長より、海外会員のメリット向上の一環として、日本地震工学会論文集は英文でも受け付けているため、これを活用してはどうかとの意見があった。また、2重投稿とは見なさずに、査読過程で高い評価を得た和文論文を英文チェックだけで英文論文として掲載できる方法を論文集編集委員会と協議するようとの指示があった。
- ・ 当麻副会長より、若手会員がメリットを感じられる仕組みの1つに若手を対象とした表彰があり、例えば、卒業論文、修士論文を表彰対象とし、スペシャルアドバイザーに審査員になってもらう、などの方法が考えられるとの提案があり、この方式を実現させるため、検討を開始することとなった。

#### 10) 事業企画委員会からの報告（松田理事、資料 16-16）

松田理事より、第1回事業企画委員会における議論の内容が説明された。これに対して、以下の指摘があった。

- ・ 川島会長より、震災予防講演会部会（部会長：武村雅之教授）は、本会の主催として毎年1月にパシフィコ横浜で大規模な講演会や展示会を開催しており、本会にとって重要な事業を担当している。この担当グループが事業企画委員会の中に紛れているのはおかしな話であり、このグループを常設の委員会としてはどうかとの提案があり、了承された。
- ・ 川島会長より、Wikipedia のページ作成に積極的に貢献すべきであるとの意見が出された。Wikipedia は一般市民に対する情報発信として大きな役割を持っているが、これに対して地震工学分野からの貢献が低いためである。事業企画委員会の委員が執筆するというよりも、適当な執筆者を組織化し、この事業を開始する所までの道筋を立てて欲しい。スペシャルアドバイザーに協力してもらうことは有効と考えられる。
- ・ 若松副会長より、研究的な内容の事業だけではなく、実務的な内容の企画もすべきではないかとの指摘があった。

#### 11) 会員名簿の Web での公開について（渡壁理事、資料 16-17）

渡壁理事より、資料 16-17 の会員情報の初期設定と会員登録情報の更新をお願いする文章を7月号の会誌とともに配布することが報告された。会員登録情報の更新を8月末までに行うように全会員に依頼しているので、この結果を待ち会員限定で会員名簿をホームページで閲覧できるようにシステムを更新する予定である。

#### 12) 平成 24 年度関係学会地震被害調査連絡会 緊急時の連絡先（田村理事、資料 16-18）

田村理事より、5学会（土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本地震学会、日本地震工学会）の地震被害調査連絡会の緊急時の連絡体制に関して報告があり、以下の指摘があった。

- ・ 川島会長より、地震時にすぐ機能するように、年1回程度は担当者が集まって定例会を開いてはどうかとの指摘があった。
- ・ 若松副会長より、日本機械学会にも参加していただくのはどうかとの提案があり、候補者

の依頼をすることになった。

### 13) 日本地震工学会 次号会誌（平成 25 年 1 月）企画素案（齊藤理事、資料 16-19）

齊藤理事より、平成 25 年 1 月号会誌のスケジュールと企画素案について説明があった。東日本大震災特集号 4 として、震災からの復興をテーマとしており、3 つの企画案が候補となっている。これに対して、以下の指摘があった。

- ・ 齊藤理事より、現状の企画案では執筆者が学メンバーに偏っているため、自治体の防災担当の方にも執筆して頂くことを検討しているとの案が出された。これに対して、川島会長より、自治体の方に執筆依頼をしても本音を書いて頂くことは難しいので座談会形式としてはどうかとの意見が出された。

次回予定：平成 24 年 9 月 10 日 理事会 17：00 より（場所：建築会館）

記録担当：総務理事 福喜多輝

議事録承認

平成 24 年 9 月 10 日

会長 川島 一彦

平成 24 年 9 月 10 日

総務担当理事 福喜多 輝